

パリ通信・第114号

パリ市庁舎「シモーヌ・ヴェイユ回顧展」

パリの近況・ワクチンの効果

集団ワクチン接種が予定より早く進むフランスでは、本日15日から12～17歳未成年者への接種が始まった。強制ではなく希望者のみで両親二人の合意書が必須、接種会場には最低片親が同伴することが条件だ。未成年がコロナウイルス感染により重症化する率は極めて低い。自身の予防というより両親や高齢者、後期高齢者への感染予防、集団免疫力に貢献するのが目的である。事実ワクチン接種効果でフランスの一日感染者は700を下回る劇的な効果が上がっている。9日から夜間外出禁止緩和(23時から翌朝6時)を残すのみでコロナ対策規制がほぼ解除された。

一週間足らずで日常生活の行動範囲が一気に広がった。レストラン、カフェ、シネマ、百貨店、スポーツジムなど長く閉まっていた場所が再開。長かった不自由な拘束から解放され、失った時間を取り戻したい熱気に満ちている。さらに例年にない6月の高温で夏のバカンスへの熱い期待が皆の笑顔に溢れている。

私自身4日ファイザー接種2回目を終了し、外出のストレスから解放され急に忙しくなった一週間を送った。郊外に出かけ、プールに行って、予約は必須だが展覧会も開会、まずは歩いて行けるパリ市庁舎「シモーヌ・ヴェイユ回顧展」を見た。



夜のパリ市庁舎



「シモーヌ・ヴェイユ回顧展」

1927年7月13日ニースの裕福なユダヤ人家庭に生まれたシモーヌ・ジャコブがユダヤ人強制収容所を体験し、フランスに帰還後結婚、出産、ポンピドゥー大統領に認められ、女性初の大臣を努め、人権擁護のシンボルに至った90年の生涯を年代順に紹介した展覧会である。

シモーヌは建築家の父アンドレ・ジャコブ(1891-1944)と母イヴォンヌ・スタインメッツ(1900-1945)の間4人兄弟の末子として生まれる。1929年世界恐慌で生活苦を強いられながらも6人家族の平和な幼年時代を過ごしている。第二次世界大戦が勃発しユダヤ人迫害が進むにつれ、シモーヌ・ジャコブはシモーヌ・ジャキエとフランス風の名前で身を隠す。父親の教育方針で優秀な生徒として1944年3月29日バカロレアを取得するが、翌日捕えられる。母、姉と共にアウシュビッツ、次いでベルゲンユダヤ人強制収容所に送られた。1945年3月母親が収容所で亡くなる。17歳のシモーヌは未成年者だが年上にも思われ毎日強制労働が続いたと言う。とにかく食べるものがなくていつも空腹だった。ある朝起きたら母が静かに絶えていたと回想している。父親と兄ジャンも別のユダヤ人強制収容所で亡くなっている。1945年4月15日イギリス兵が収容所を解放して戦争が終わることを実感したと述べている。

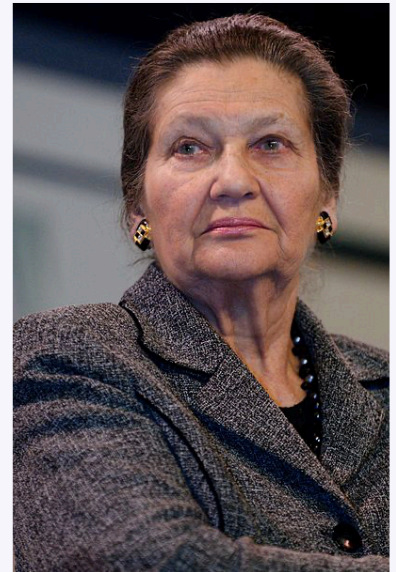
姉と二人パリに帰還するが両親を失い、経済的な基盤もなく、収容所体験に苦しみながらも弁護士を目指して生きる道を進む。1946年10月バカンス中に知り合ったアントワヌ・ヴェイユと結婚し、シモーヌ・ヴェイユとなる。直ぐに3人の男子が生まれ1953年までは主婦として子育てに専念した。しかし弁護士になる決意は強く、1956年司法官となり1964年まで刑務所の改善に務めた。特に女性勾留者の条件改善に力を尽くしたことで知られる。

1974年5月ジャック・シラク政権下、フランス第五共和政初の女性大臣として保険大臣となる。ジスカール大統領時代から禁止されてきた人工中絶を国会答弁で擁護し、女性の権利として法案を通したことは彼女の大きな貢献として今も評価されている。1979年にはヨーロッパ議会の議長職に選出され人権擁護のシンボリックな存在となる。

2001年から2007年までショア記念財団の会長を務め、2017年ユダヤ人強制収容所体験者として90年の生涯を閉じ、パリ5区パンテオンに夫アントワヌと共に永眠した。

10代に戦争体験をした人は生涯その重荷を背負わなければならないと言うが、まさにその通りの人生だと思う。そしてどんなに辛く悲惨な時にも絶望ではなく生きる喜びを求めた彼女の姿勢は現代の若い女性たちにとっても勇気と強さを教えてくれると感じた。会場に掛けられた9枚の写真に90年の長さを見る思いがした。

フランスの政治家
シモーヌ・ヴェイユ
Simone Veil



生年月日 1927年7月13日

出生地 フランス、ニース

没年月日 2017年6月30日 (89歳没)



(パリ市庁舎。シモーヌ・ヴェイユ回顧展・写真は古賀順子さん撮影)

注記

①哲学者で同名のシモーヌ・ヴェイユ（1909年～1943年）とは別人です。

②ショアー財団

ショアー記憶財団 (Fondation pour la Mémoire de la Shoah) は第二次世界大戦下のユダヤ系フランス人の没収資産をもとに2000年に設立された。この財団の使命とはホロコーストに関連するあらゆる分野の歴史と研究の支援であり、教育、送信、記憶、連帯とユダヤ文化のプロジェクトを取り上げてきた。

